

目指す学校像	【自信・自律・自立】 自己の能力(よさ)を最大限発揮できるよう、「チャレンジ」の気運を全員で醸成し、子どもたちの笑顔あふれ、一人ひとりが輝く学校
重点目標	1 ICTを基盤とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」を連動させた授業改善・推進 2 誰もが居心地のよい(Well-Being)学校を支える安心・安全システムの構築 3 コミュニティ・スクールとしての方策の共有と行動(家庭・地域・関係諸機関との連携) 4 同僚性の向上による働き方改革の推進と質の高い教職員の育成

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度		目 標			年 度 評 価		実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○昨年度の全国学力・学習状況調査では、国語、算数とともに、全国・県平均と比べ概ね良好な結果であったが、ここ数年間を見ると決して良好とはいえない状況にある。 ○全国学力・学習状況調査で、「国語の勉強が好きだ」「算数の勉強が好きだ」のアンケート項目では、肯定的な回答をした児童の割合は、国語、算数共に市平均を下回った。 ○教師の発問に進んで挙手をして発言したり、自分の考えを根拠をもって説明したり、自信をもって発表したりする児童は多くはない。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語・算数ともに、「自分の考えをしっかりとつこと」「表現力を向上させること」が課題と捉えられる。 ○普段の授業の中で、自分の考えを筋道立てて表現し、充実感を味わえるようにすることが課題である。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の連動による授業改善 ・ICTを基盤する授業実践の構築	①アクティブ・ラーニング型授業に積極的に実践しながら、学びのポイント「じしゃく」を活用した授業研究を各学年、年間1回以上行い、主体的に学習に取り組めるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。	①学校評価の教職員アンケートで、学力定着に関する項目の肯定的な回答の割合が、90%以上となったか。授業モデル「岩槻小スタンダード」を作成することができたか。 ②児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況も基に、課題をつかみ、目標を立て、達成のために努力し、結果として、市学習状況調査の達成率が昨年度より向上したか。 ③取組状況を月1回以上確認し、進捗状況について面談等で適切にフィードバックできたか。また、なかなか進んでいない児童に支援することはできたか。 ④報告書をもとに、ICTの効果的な活用についての報告会を年間2回程度実施できたか。					
2	(現状) ○昨年度の学校評価児童アンケートで、「学校に行くのが楽しい」の項目に肯定的な回答をした児童は90%であった(3年間平均89%)。 ○心と生活のアンケートの結果、面談実施児童が各学年約18%である(要因：自己肯定感)。 ○教育相談主任 SC、SSW への保護者、児童からの面談の申し込みが多い。 ○安全点検は毎月確実に実施され、緊急的な不具合に対する修繕はすぐ行っている。 (課題) ○専門職からの報連相が対応の中で活かされることがある。適切なタイミングで、組織的に支援していくことが課題である。 ○安心して学べる環境づくりという視点での気付きや工夫改善が求められる。	・誰もが安心して学ぶことができる校内体制の充実 ・誰もが居心地のよい(Well-Being)教育環境づくり	①一人ひとりをしっかりと見つめる教育を展開する。緊急案件では管理職・生徒指導主任・教育相談主任を中心に、迅速に対応できる組織を強化する。 ②SC、SSW からその日のうちに確実に報告を受け、その後の対応等に活かす体制をつくる。 ③誰もが居心地のよい(Well-Being)という視点で、教育環境を見直し、改善計画を立案する。 ④安全点検結果及び必要修繕箇所報告等を受けて、Well-Being な環境づくりに向け、施設面、予算面での会議(打合せ)を実施し、確実に実行に移す。	①日頃、報連相が確実に行われたか緊急案件発生時は、すぐに関係者を招集し、緊急会議後、迅速かつ組織的に対応できたか。 ②勤務時間内に、確実に報告が行われ、情報共有できたか、学校評価保護者アンケートの関連項目で肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ③誰もが居心地のよい(Well-Being)という視点でアンケートを実施し、改善計画を立てることができたか。 ④学校評価保護者アンケートで「学校は教育にふさわしい環境の場」の肯定的な回答をする割合が90%以上となったか。施設面・予算面での会議(打合せ)を月1回以上実施できたか。					
3	(現状) ○岩槻中、太田小と合同の学校運営協議会では、目指す児童の姿について熟議を行った。「かしく生きる力」「伝統を愛する力」を身に付けた児童生徒を地域全体で育てていくことを共有した。連携の具体策についても熟議した。 (課題) ○学校運営協議会3年目ということで、さらに熟議を重ね、「身に付けさせたい力」の育成に向けた方策をしっかりと見極め、継続かつ具体的な行動に移すことが課題である。 ○地域諸会議(防犯ボランティア会議等)で、課題を共有し、課題解決のために行動したい。	・目指す児童生徒の姿を地域全体で共有する ・登下校時を始め安全上の課題を早期に解決する体制強化	①ホームページや学校だよりで教育活動を公開し、児童の活動の様子を知ってもらうと共に、学校運営協議会の取組についても、保護者と共有する。 ②運動会や授業公開等、地域の方に教育活動を公開し「地域と共に生きる学校」への関心を高める。 ③防犯ボランティア会議で課題と課題解決に向けた対策を協議し、連携体制を強化する。 ④防犯ボランティア会議の内容を地域・保護者と共有し、連携を図る。	①2週間に1回以上ホームページを更新できたか。また、学校評価保護者アンケートで、「学校は情報を積極的に発信している」と回答する保護者の割合が80%以上となったか。 ②地域の方への教育活動公開を年2回以上実施できたか。 ③会議を年3回以上実施すると共に、学校評価に係るアンケートで「学校は関係諸機関との連携を図っている」と回答する割合が80%以上となったか。 ④防犯ボランティア会議の協議内容等を、年間2回以上発信できたか。					
4	(現状) ○会議の精選、放課後の時間の使い方の工夫等を通して、時間外在校時間は20%減少した。 ○教職員が互いを認め合える人間関係ができています。職員室の雰囲気は明るい。 (課題) ○心身をリフレッシュさせ、明るく元気に働く姿を見ることが課題である。 ○教職員事故根絶に向け、年齢や経験に関係なくお互いよくない行いを指摘できたり、悩みを相談できたりする関係を築くことが課題である。	・授業力だけでなく、人としての資質向上と、やりがいを感じる職場環境の構築。	①時間を効率的に使い、パフォーマンスを向上させながらも、時間外在校時間を前年より減らす。 ②学校課題研修として、全員参加の授業研究会を年3回以上実施し、深い学びの実現に向けた授業改善について協議する。 ③教職員事故防止、危機管理対応に関する研修を実施し、意識を高揚させ、対応力を向上させる。	①学校評価教職員アンケート「職務に対する意欲向上」に関する項目で、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。時間外在校時間が減少した教職員の割合が80%以上であったか。 ②校内授業研究会を年3回以上実施すると共に、明確にした成果と課題を、授業改善に役立てることができたか。 ③教職員事故防止、危機管理対応に関する研修を年間4回以上実施できたか。教職員事故が0であったか。					